

4-3. 統合再生プロジェクト

特定課題が多数重なり、かつ課題の重要度が高い場所では、問題が集中しており、事業主体同士が連携しつつ、事業を横断的に進めていくことが重要であることから、こうした流域を統合再生流域として設定し、そこで実施する事業群を統合再生プロジェクトとして位置づけ事業を展開します（図17）。

生きものを中心とした統合再生流域

奥山域でのブナの立ち枯れ、シカの採食圧による林床植生衰退や希少動植物への影響の深刻化を踏まえ、問題が集中し、事業連携が必要な東丹沢と西丹沢の2流域についてプロジェクトを設定します。具体的には、東丹沢の堂平を含む中津川流域では、ブナ林の再生、人工林の再生、シカの保護管理などを集中・連携して取り組むこととします。西丹沢の白石沢を中心とした中川川流域では、ブナ林の再生、シカの保護管理、希少動植物の保全などを集中・連携して取り組むこととします。

・・・PJ1、PJ2

自然と人との関わりを中心とした統合再生流域

里山域での野生動物による農作物被害や住民、登山者のヤマビル被害の深刻化、山地域での森林の適正な管理の遅れなどを踏まえ、人工林の再生、シカの保護管理などを含めて総合的な野生動物対策を進めるモデル地域として、東丹沢の清川村の小鮎川流域およびその周辺において、関係機関が事業連携し取り組むこととします。

・・・PJ3

| 景観域 | | 再生の方向性 | | | |
|-----------------------------------|-----|----------------------------|--|--|--|
| | | 水と土を統合的に捉え再生を目指す | | | |
| | | 生きものを中心とした統合再生流域 | | 自然と人との関わりを中心とした統合再生流域 | |
| 主要 施策 の 構 成 事 業 | 奥山域 | ブナ林保護対策工法の開発 ブナ林衰退機構の解明 | ブナ等森林再生の実証試験 植生保護柵などによる ブナの稚樹保護対策 シカの個体数調整 林床植生消失地における 土壌保全対策 | | |
| | 山地域 | 公益的機能を重視した 混交林等への転換 | 森林管理と連携した シカの個体数調整 | 森林資源の活用に持続可能な 人工林の整備 公益的機能を重視した 混交林等への転換 森林管理と連携した シカの個体数調整 | 森林資源活用による 持続可能な人工林の整備 県産木材の有効利用の促進 |
| | 里山域 | | | 獣害防止柵の設置 ワナ等による計画的捕獲 地域主体の野生動物被害対策 への支援 | 里域住民主体の 地域活性化事業への支援 |
| | 渓流域 | 渓流生態系重点保存地区の検討 溪畔林の整備 | 溪畔林の整備 | | |
| 再生手法 | | 受動的 | 能動的 | | 活用的 |
| 統合再生プロジェクト | | PJ2:西丹沢1 | PJ1:東丹沢1 | PJ3:東丹沢2 | |

図17 統合再生流域の特徴

統合再生プロジェクト1：東丹沢1



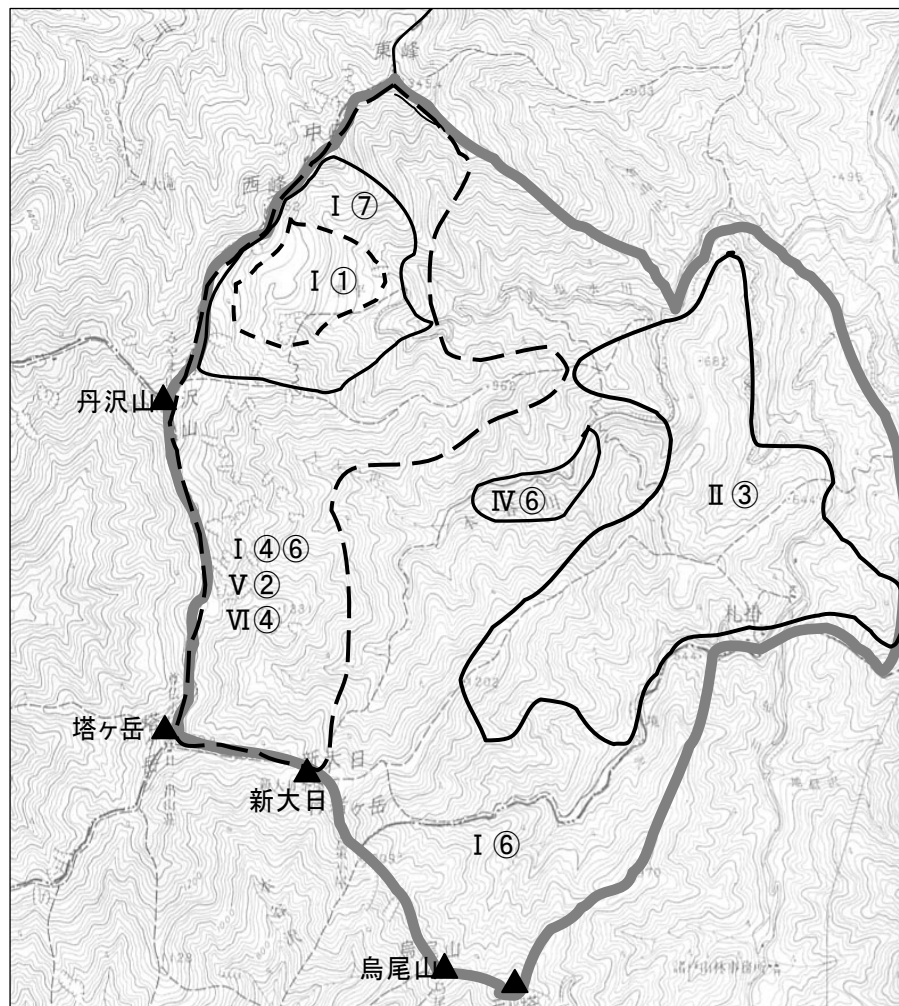
本流域は、奥山域を中心にシカの高密度化による林床植生の衰退と、それに起因する森林土壌の流出が起っています。

奥山域ではシカの管理捕獲と併せ植生保護柵等によるシカの餌場の縮小を図り、シカの生息密度を減少させます。また、森林土壌の流出防止対策を行います。

山地域では、森林整備により林床植生の回復を図るとともにシカの管理捕獲を行うことで、適正な密度のシカが生息できる森林環境の保全を図ります。

渓流域では、溪畔林の整備や林床植生の回復を図り、溪流への土砂の流入を抑制します。

| <目標指標> | (現在) | (5年後) |
|-------------|-------------------------|--------------------------|
| 最大林床植生劣化レベル | IV | → III未満 |
| シカ生息密度 | 最大 20 頭/km ² | → 5 頭/km ² 未満 |



統合再生プロジェクト1 東丹沢1 における事業の内容（5ヶ年計画）

| 特定課題名 | 番号 | 構成事業名 | 5年間の数量等 |
|-----------|----|---------------------|-----------------------|
| I. ブナ林の再生 | ① | ブナ等森林再生の実証試験 | 2.0ha |
| | ④ | 植生保護柵などによるブナの稚樹保護対策 | 39.5ha |
| | ⑥ | シカの個体数調整 | 5頭/km ² 未満 |
| | ⑦ | 林床植生消失地における土壌保全対策 | 58.5ha |

| 特定課題名 | 番号 | 構成事業名 | 5年間の数量等 |
|------------|----|-------------------------------------|---------|
| II. 人工林の再生 | ③ | 森林管理と連携したシカの個体数調整 (シカの生息環境整備モデル) | 適正密度の検証 |

| 特定課題名 | 番号 | 構成事業名 | 5年間の数量等 |
|--------------|----|--------|---------|
| IV. 溪流生態系の再生 | ⑥ | 溪畔林の整備 | 5.0ha |

| 特定課題名 | 番号 | 構成事業名 | 5年間の数量等 |
|------------|----|----------------------|---------|
| V. シカの保護管理 | ② | 植生保護柵の集中設置による高密度化の防止 | ㊦39.5ha |

| 特定課題名 | 番号 | 構成事業名 | 5年間の数量等 |
|--------------|----|----------------------------|---------|
| VI. 希少動植物の保全 | ④ | 林床植生保全のための対策 ～植生保護柵の設置～ | ㊦39.5ha |

㊦…他の特定課題の構成事業を再掲している事業の数値